

【瀬谷区社会福祉協議会地区社協分科会（令和8年5月 27 日）】

第4期瀬谷区地域福祉保健計画（5年間の振り返り）

1【阿久和北部地区】

第1期から掲げてきた「みんなで!! 笑顔あふれるまちづくり～元気で見守り支え合い安心できる阿久和北部～」を継続し、第4期も活動を進めた。コロナ禍で事業に影響はあったが、工夫により運動会に代わり、2会場でレクリエーション大会を実施するなど対応した。見守りの家では飲食提供を自粛し、代わりに災害時にも役立つすいとんの提供を行った。子ども食堂は屋外開催により継続でき、子どもだけでなく家族・高齢者も参加し交流が広がった。喫茶だんらんも地域の交流の場として継続。第4期ではホームページを開設し、若い世代の参加促進を図った。地域力や担い手不足が課題であり、第5期ではより多くの住民参加を促し、お互いさまで支え合う地域づくりを進めていく。

2【阿久和南部地区】

高齢者・障害者の見守りと子ども支援に重点を置いて活動した。原小学校では学習支援「寺子屋ふたば」を例年通り実施しているが、参加者増に対して少数のボランティアでは対応しきれなくなっていたため、今年度は登録方法を見直して参加者の絞り込みを実施することにした。横浜隼人高校のボランティア協力もあるが高校の授業時間との調整が課題となっている。阿久和小学校が閉校になり、統合後のいずみ野小学校からの要望もあってぽかぽかプラザで学習支援を行ったが参加者がなく発展的解消となった。敬老会は地区内の高齢者施設の送迎バスの協力を得て、今まで遠方で参加が困難な方も参加しやすくなった。配食サービスは阿久和北部地区との協働で数年前より再開したが、多くのボランティアのお陰で今後も盛況に進めていく。

3【三ツ境地区】

「高めようみんなのご近所ヂカラ」を掲げ、第4期も高齢者昼食会・サロン、子育てサロンを継続した。コロナ禍でも工夫しながら活動を維持し、現在は参加者が増加している。フレイル予防の体操会では指導グループを育成し、各集会所で活動を展開。参加者から新たなグループも生まれ活発化している。生活支援と集いの場として「三ツ境サポーターズ」を設立し、植木の手入れなどの支援ニーズに対応しているが担い手の高齢化が課題。30年続いた配食はトップ退任を機にアンケートを実施し、他サービスの普及もあり休止となった。昼食会は調理負担を考慮し、お弁当形式で継続している。

4【瀬谷第一地区】

第4期では「幸せの四葉のクローバーがたくさん育つ地区となろう」を目標に掲げ、第5期も同じ4つの大目標を掲げて進めることが確認された。小目標の6～7割を達成。コロナ禍を契機に『私の健康法』冊子を2回発行し、健康意識の向上と横のつながりを促した。健康ウォークも復活。困りごと＆ボランティアアンケートを2,200部配布し511部の回答を得た。庭木の剪定や雑草除去の困りごとが多く、応援隊の設立を議論したが第4期では実現出来ず第5期の課題となっている。但し住民の困りごとを正面から把握できたことは大きな成果と言える。

5【本郷地区】

第3・4期と続けてきたお助け隊は担い手の高齢化により継続困難となり中止となった。区役所補助金を活用した地域全体での見守り活動も5年間で終了したが、その中で災害時を見据え高齢者・乳幼児の把握を進めた。新設された公園の活用は第5期の検討課題となっている。移動スーパーは一時撤退したが場所を減らしつつも再開。地区内7か所のサロンは工夫を凝らしながら活発に継続され、参加者も安定している。

6【瀬谷北部地区】

第4期の3年目にホームページを立ち上げ、現在は3か月に1回の更新で継続している。子育てサロンやシニアサロンを民生委員・児童委員が中心となって実施し、シニア向けにはフレイル予防として座学だけでなくスポーツ体験会も行った。配食サービスは担い手交代により週1回から月2回に変更したが継続中。移動販売も順調で、今後も継続していく。第4期の計画を第5期でも発展させていく方針。

7【瀬谷第二地区】

「ゆずり葉の集い」を継続し、コロナ禍の中止を経て民生委員の協力や運営工夫により再開した。障害者支援として見守りや車いす体験研修を実施し、研修後には地区内の歩道などの危険箇所を写真で持ち寄り改善提案を区へ提出した。これを踏まえ、第5期ではテーマを7つから8つに拡大。ボランティア活動・配食活動は各組織で継続し、サロンやラジオ体操も活発。地区社協で連絡会を設け、代表者が実情を共有している。広報紙「ゆずり葉」を総会に合わせて全世帯へ配布し、第5期計画も紹介した。

8【細谷戸地区】

細谷戸地区では、「心が通じる地域づくり・地域は家族」～高齢化社会のおあしす地域～を目標

に、住民同士が支え合い、安心して暮らせる地域づくりを進めている。第4期には、ポッチャを通じた交流の場「ポツ茶会」や健康麻雀の「ニコニコ会」が新たに始まり、地域住民の交流が広がった。また、民生委員を中心に子ども食堂も開設され、外国にルーツのある子どもにも配慮した取組が行われている。さらに、ビーハイブ活動や安心キットの配布を通じて見守りと顔の見える関係づくりを継続し、県の協力で開設された「おあしす 102」は、横浜市高齢者支援事業の相談窓口として活用されている。令和7年4月に連合は解散したが、第5期も地区社協・地区民児協と連携し、活動を継続していく。

9【瀬谷第四地区】

コロナ禍と会長交代を経た4期では、多様な目標を3本柱に整理した。①子育て支援として小学生向けイベントや未就学児向け「子育て広場ゆうスリー」を実施。②高齢者支援では「SOS ネットワーク」としてお茶飲み会を開催し、頭・体・口の体操を行い、配食やゴミ出し支援のボランティアをサポート。③人材育成として地区内サークルが集まり、新規参加者を募る体験会を年1回開催。第5期もこの3本柱を継続する。

10【南瀬谷地区】

「みんなで育てよう暮らしやすいまちみなみせや」をテーマに活動。連合 11 団体、協力団体 13 団体が参加していたが人数増により、第4期から代表制の話し合いに変更した。地域福祉保健計画の浸透を図るため簡易アンケートを実施し、分かりやすい言葉で伝える工夫を進めている。支え合い・助け合い・多世代交流・SNS 活用を継続課題としている。子育てサロン、高齢者サロン、プレイパークなどは継続。今後、担い手の高齢化や、生活様式や社会制度の変化に伴い、地域のボランティア活動に何が求められているか等、地域活動の在り方について検討していく。

11【宮沢地区】

宮沢では「水と緑のまちづくり宮沢・暮らしやすい宮沢」を目標に取組を進めてきた。全世帯を対象としたアンケートをきっかけに始まった移動販売は、現在も買い物支援として継続し、住民の生活を支えている。

第4期では、ポッチャやハマトレの普及、スポーツフェスタを通じた異世代交流の促進、プール公園（宮沢第二公園）の花壇整備などを実施し、地域の憩いの場づくりを進めた。これらの活動は、まちづくり推進委員会だけでなく、水辺愛護会や公園愛護会など多くの地域団体の協力によって支えられている。

第5期では、SNS を活用した情報発信の強化と、口コミや会話を通じた自然な広がりも大切に、誰もが参加しやすく風通しの良い地域づくりを進めていく。

12【相沢地区】

会食会はコロナ禍で休止後、そのまま解散となった。担い手の高齢化はあるものの、配食サービスは継続している。「相沢助け合いの会」では草取り・枝切りなどの支援を行うとともに、一人暮らし高齢者の安否確認を実施。80代の担い手ボランティアも多く、各自のペースで会話を楽しみながら活動している。地区には障害者施設が多く、日常的に障害者が地域に参加できる関係づくりを目指している。交流はできているが、さらに一歩進めることを今後の継続課題としている。